

トンガ王国に於ける小学校歯科保健活動がもたらしたう蝕予防効果

○河村康二¹，河村サユリ¹，遠藤眞美²，竹内麗理³，田口千恵子⁴，小林清吾⁴

¹カワムラ歯科医院，² 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座，³ 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座，

⁴ 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座，

【緒言】南太平洋医療隊は1998年より南太平洋のトンガ王国（以下トンガ）に於いて予防歯科保健活動を行っている。2001年の調査でトンガ12歳児DMFTは高い値を示していた為、小学校を訪問し予防歯科保健教育を軸に、週1回のフッ化物洗口（0.2%NaF溶液）を実施するに至った。当初数校から始めた活動は2008年には全公立小学校へ広がっている。洗口液はトンガ予防歯科チームが作成管理し専用車でデリバリーを行うが、急速な対象校の拡大はマンパワー不足とオイル代の増加をもたらした。フッ化物洗口によるう蝕予防効果は周知のことであるがトンガに於ける効果を知るべく調査を行うと共に今後の活動を再考した。

【対象及び方法】フッ化物洗口を6年以上継続しているフッ化物洗口群（F群）と1年以下のコントロール群（C群）の各3小学校の10歳児（5年生）計109名（F群：46名、C群：63名）。歯面別に永久歯う蝕診断を行った。軽度（象牙質う蝕）、重度（歯髄感染あり）、う蝕による欠損歯、処置歯の分類、シーラント処置歯に分類し、F群とC群とで、口腔全体、前歯部、臼歯部でDMFT-indexを比較検討した。同時に間食と歯磨き習慣に関する質問紙調査も行った。

【結果及び考察】う蝕予防効果は口腔全体54.2%、前歯部43.8%、臼歯部55.4%であり、口腔全体、臼歯部で有意差が認められた。重度う蝕所有者率はF群17.4%、C群23.8%で明らかな差を認めなかった。重度う蝕所有者を除外した場合のう蝕予防効果は口腔全体60.9%、前歯部100%、臼歯部59.1%であった。藤瀬による2007年ババウ諸島の小学校1年生の調査では、30%の児童に永久歯萌出を認め、その30%に第一大臼歯う蝕を認めたとある。重度う蝕歯は就学前にすでに罹患していたと考えられる。間食はいずれの群も殆どの児童がすると答え、学校と家とで2回以上摂っており、多くの児童が就寝前にも摂っていた。種類はスナック菓子や清涼飲料水であった。歯磨きは多くの児童が1日に2回以上行い64%の児童は就寝前に歯を磨くと答え、フッ化物配合歯磨剤を使用していた。質問紙調査では両群に大きな差異は認められなかった。5歳で入学するトンガでは早い段階でのう蝕予防プログラムが不可欠であり、父兄や教師の協力の下で行われることでより強固なものとなる。同様に日本に於いても就学前の組織的なう蝕予防が将来の永久歯う蝕の減少につながると考える。